JCHO 高岡ふしき病院地域協議会

日　時　　平成２９年２月２３日（木）１５時３０分から１７時００分
場　所　　JCHO 高岡ふしき病院２階会議室
各委員　　行　政：高岡市福祉保健部健康増進課長　　長澤　雅春
　　医師会：高岡市医師会幹事　たみの医院長　民野　均
　　地　域：伏木校下自治会連絡協議会副会長　大黒　幸雄
　　病　院：高岡ふしき病院　院長　　加藤　弘巳
　　同　　副院長　　宮﨑　幹也
　　同　　事務長　　小西　治久
　　同　　副総看護師長　　前畑　香代子

内　容

冒頭、開催頻度について、より関係者の皆様の意見を聴く機会を設けるとの主旨から複数回開催することとしたことについて説明するとともに委員の皆様からの理解を得た。また協議会の情報公開について構成員や議事録の内容について、病院のホームページ等により公開する旨を説明し了解を得た。その後、加藤院長より第４回協議会開催の挨拶を行い、協議会設置要綱第５条の定めにより加藤院長が議長となり議事に入った。

議　事

１　地域包括ケアシステムにおける当院の在宅医療等を含めた28年度の取組について報告

加藤委員（議長、院長）より、地域包括ケアシステムの推進に向けて当院の取組について下記の項目ごとに説明した。

（１）院内での連携

① 地域連携室を中心とした院内連携の構築について説明
② 毎朝多職種にて実施している新入院カンファレンスについて説明
③ 毎週月曜日に実施している病床調整委員会（地域包括ケア病棟の運営）について説明
④ 訪問看護ステーションの 24 時間対応における在宅医療の提供について説明

（２）地域及び地域の医療機関との連携

① 医師会との毎月の症例検討会、開放病床の高利用、歯科医師との病棟回診などの現状について説明

② 他の公的病院との連携ネットや地域連携パスでの連携について説明
③ 地域包括支援センターとの協力体制と地域ケア会議への会場提供や参加について実情を報告

（３）介護、福祉との連携
① 地域連携室が主体となり、介護・福祉・行政との意見交換
② 当院実施の介護・福祉・医療施設連携の会について報告
③ 多職種が参加し情報共有する「えんげの会」について説明

（４）在宅看取りや認知症への取組
① 施設担当者を含め多職種での看取りについての情報共有
② 認知症ケア認定看護師が中心となり実施する患者レクレーションや職員全体研修について説明

２　平成２８年度決算見込について報告

小西委員より平成２８年度の決算見込について口頭で報告した。

平成２８年度は８７百万円の黒字を目論んでいる。

収入では、入院収入において入院単価の減により前年度対比で減収も、外来収入において外来単価の増により、全体としては前年対比で５百万円の減収に留めている。

一方の費用では、職員の採用などによる給与費の増やリハビリ室の改修などによる整備関係の拠出もあるが、全体として８７百万円の黒字を確保できると見込んでいる。

３　各委員からの意見

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）

入院における収益が減っているのは在院日数が影響しているのか。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）

当院は DPC のため入院期間が長引くとダイレクトに影響が出る。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）

長期入院患者が多いので診療単価が低い。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）

今後、高齢者が多くなっていくなかで、開業医としては二次的に受け入れてくれる病院を確保しないと困ることになる。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）
　当院では、地域包括ケア病棟があることで、一般病棟からの転棟が可能となり入院日数に余裕ができる。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　一般病棟から地域包括ケア病棟への転棟がスムーズであれば入院日数については改善される。ただ、全国の JCHO 病院の中でも当院は平均単価が下位となっている。

小西治久委員（JCHO 高岡ふしき病院事務長）
　当院では慢性期の患者が多くなってきていることで入院単価にも影響がでている。急性期の大きい病院でも医療資源の投入が少ない患者が多くなってきていると聞いている。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　市内の急性期病院の院長からも同様な説明があった。

小西治久委員（JCHO 高岡ふしき病院事務長）
　看護単位が７対１の急性期病院では患者の重症度や看護必要度が大きな問題である。よって、当院では重症度等の低い患者でも積極的に転院を受けている。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　患者が退院後１ヶ月以内に再入院となると、同一病名での入院依頼は難しいが、家族のことがあるので同じところにお願いすることになる。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　同一病名でも急性期病棟の退院では、1 週間経過していれば一応可能である。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）
　地域包括ケア病棟の退院では３ヶ月間の間隔があれば可能である。
　ただ、ADL が下がった施設からの入院患者においては、受入ができるバックアップ体制はとっているものの、結果的に送り元へ返せない事例もある。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　施設において、熱が上がる、食事できない、点滴が必要となるなどの時でも

病院へお願いすることとなる。そのような患者でも土日対応していただけるとありがたい。勿論、患者急変の場合に病院へ救急依頼することもあるが、看取りのために介護療養型の病院へ依頼したこともあった。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）
　施設での看取りについては、経験不足からの不安により進んでいないのが現状であるが、最近は徐々に増えてきている。

前畑香代子委員（JCHO 高岡ふしき病院副総看護師長）
　確かに施設での看取りは経験不足から介護士が怖がっている感はある。
　当院の訪問看護は２４時間体制を取っており、協力施設のサ高住において３件の看取を行っている。また在宅での看取りの要望もあり、訪問看護師が看取りの対応等について説明を行っている。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　患者家族の視点では、病院で治す治さないでなく、病院にお任せするという考え方になりやすい。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　患者及び家族に説明、納得していただきながら対応していかなければならない。当院ではレベルは徐々に下がったが救急車を呼ぶまでもない患者も受け入れている。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　土曜日に開院していることが非常にありがたい。若い患者で未だに JCHO 病院の場所を知らない患者がいる。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　このほど JCHO へ移行した際に病院名に「ふしき」が付いて分かりやすくなったのでないか。ただ市内に公的病院があることから、市内から伏木に来ることは少ないのではないかと思う。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　地域別での患者割合は、伏木地区が５０％、他高岡地区が３５％、氷見地区が１０％、その他地区５％がとなっている。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　中田地区の患者の話しでは、高岡市民病院と高岡ふしき病院では、ふしき病院が近い。便利であるとの話しであった。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）
　当院の地域包括ケア病棟には、高岡市民病院や厚生連高岡病院から連携パスでのリハビリ目的患者が来ており、知名度が上がってきていることを感じている。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　地域住民の立場からは、高岡ふしき病院が地域包括ケア病棟を持っていることや訪問診療をしていることを知られていないのではないか。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　幅広く周知するという観点からでは、専門用語を使うと難しく何を表現しているのか分からない。高岡市医師会のホームページでは易しい言語を、例えば「在宅」を「往診して欲しい方のために」とか工夫をしている。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　例えば NHK ニュースの原稿は小学５，６年生でも分かるように工夫されている。専門用語はあまり使用しない。
　私が理事長をしている富山県アイバンクでは文字の大きさを１２ポイント以上にして専門用語はあまり使わないようにしている。

　次に外来での待ち時間が長いと言う意見を聴く。医師は高齢患者に対し丁寧に説明することで診療時間が長引く。一方で待っている患者は待たされているという意識が生じる。これらのことを解消するには、外来患者に待ち番号を渡すとか、喫茶室などの空間を作りやわらげる必要があると感じている。

　次に病院の PR について、以前に院長に講演願ったが、連合自治会の集まりがある時に、医療講座を実施してはどうか。

　次に高齢化が進むなかで病院へのアクセスが無くなっている。太田地区は近隣の開業医が巡回車両を出している。高岡ふしき病院でも定期バスを出せないか。

民野均委員（一般社団法人高岡医師会）
　道路交通法の改正で行政は、運転免許証の返納をされた認知機能低下の高齢患者方に対して、交通機関のサービスをすると聞いたが、伏木地区に巡回バスを要求してはどうか。高齢者は一回でも違反すると検査に行かなくてはならない。それで通らなければ免許を返納することになる。
　これだけの坂があるわけだから、足がなければますます不便である。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　氷見市の一地区で地域住民が認可をもらってスーパーへ行くバス車両を有料運行している。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　小型巡回バスをボランティアでお金を出し合って NPO 的にできると良い。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　高岡ふしき病院を巡回する路線バスの加越能バス㈱の関係もあるが、病院にも資金を出してもらう必要がある。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　行政の問題でもあり、病院の課題である。地域包括ケアシステムの視点からは「住」を考えているが「足」のことは考えていない。交通機関はおざなりになっており抜本的な取組みが必要。待合室の問題も考え方を変えて対応していきたい。

大黒幸雄委員（伏木校下自治会連絡協議会副会長）
　最後に、患者側はより以上のことを求めていることを承知であるが、高岡ふしき病院の食事はあまりおいしくないのではないか。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）
　私はいろんな病院食を食べているが当院が一番おいしいと思っている。病院は一般的に味付けが薄くおいしくないが、当院は上手に出汁を出している。塩分等をトータルで検討すれば更によいと思う。

宮﨑幹也委員（JCHO 高岡ふしき病院副院長）
　私も当院の出汁はおいしいと評判であると認識している。

加藤弘巳委員（JCHO 高岡ふしき病院院長）

本日はお忙しい中にお集まりいただき感謝申し上げる。色々な意見を頂戴したので、まとめまして今後の病院運営に活かしたいと思う。今後ともよろしくご支援をお願いしたい。

最後に宮﨑幹也副院長からも本協議会の出席に謝辞を述べ、また高岡ふしき病院が、より一層地域医療機能推進機構病院として役割を果たしていけるよう今後とも変わらぬご理解、ご指導、ご鞭撻をお願いして協議会を終了した。

以上

平成２９年２月２３日